

人材育成課 活動実績(令和2年度)

6NCの疾患横断的研究に付帯する人材育成を推進するために、人材育成課では、6NCの研究支援部門の有機的・機能的な連携促進を通じて、研究水準の向上や業務の効率化に貢献するとともに、疾患横断的な共同研究推進を担う人材の育成に取り組んでいる。

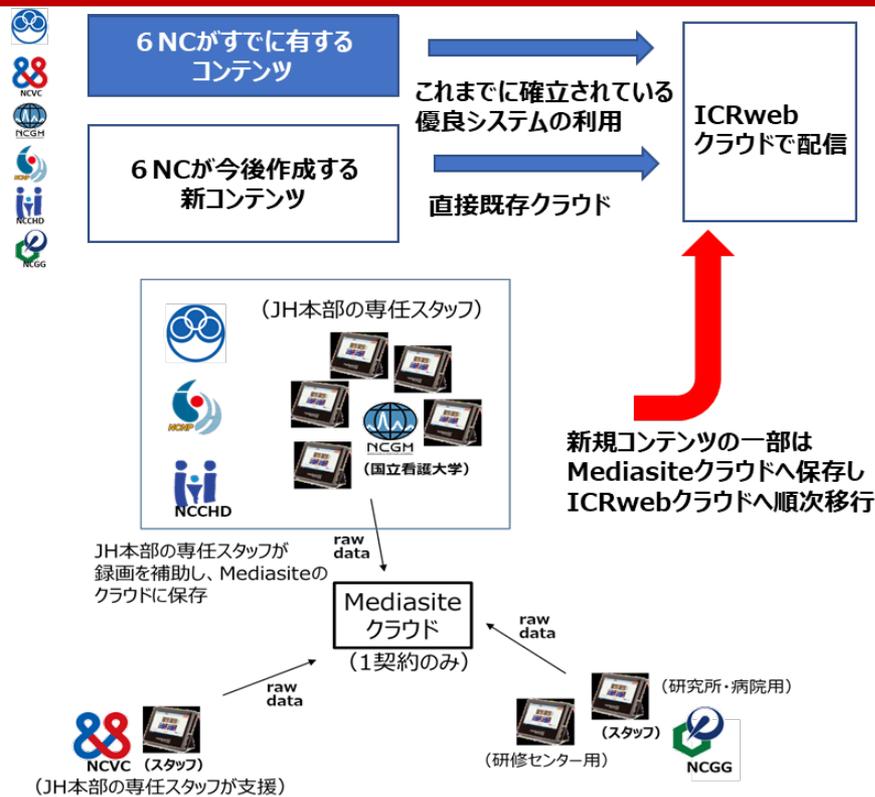
1. 6NCの既存の教育研修コンテンツを調査
2. 令和2～4年度横断的研究推進事業「6NC共通教育プラットフォームの構築」の支援(図1)
 - ・1の6NC教育研修コンテンツ調査の成果の活用を支援した
 - ・ICRwebと連携した6NCの有用な教育コンテンツのオンデマンド配信システムの構築を支援した
3. 研究支援人材(生物統計家)の育成支援(図2)
 - ・各NCの生物統計部門の人員体制や業務内容について調査、および6NC生物統計部門の担当者と意見交換会を開催し、NC連携による育成支援に必要な情報の収集と整理を行った
 - ・6NC連携による生物統計家育成のための調整を行った
4. 人材育成課カウンターパート(6NC担当者)との連携
 - ・人材育成課の取り組みに関して、6NCカウンターパート間での意見交換会を実施した
 - ・意見交換会での議論を受けて、人材育成に係る用語の定義の多様性を考慮・検討し、当課の支援対象となるデータサイエンティストや生物統計家などを「研究支援人材」と総称することにした
5. 国立看護大学校とJHとの連携
 - ・国立看護大学校関係者とJHとの連携方法に関する意見交換会を実施した
 - ・2の6NC共通教育プラットフォーム利用した看護教育の拡充を検討することになった

図1 JH人材育成課が支援する6NC共通教育プラットフォームの構築の概要

6NC共通教育用プラットフォームの構築（令和2～4年度）

- 各NCは独自に様々な教育コンテンツの開発、提供しているが、分野ごと、職種ごとに個別に作成されているために様式上の統一もなく、評価する仕組みや、reviseする仕組みも乏しく、時間的にも経済的にも無駄が生じている。
- 本研究事業では6NC教育・研修committee（6NC Education and Training Committee:6NET-C）を設立し、6NCの教育の在り方を俯瞰的に検討し、6NCにとって必要なコンテンツはなにか、欠けているコンテンツはなにかを精査する。
- コンテンツをクラウド上で管理・配信する。現在のコロナウイルス感染症が医療教育現場に与えた大きな影響をみても明らかなように、電子媒体を用いた遠隔教育の重要性は今後ますます増加すると考えられるが、専門職の教育、一般国民への啓発に対してNC発の優れたソフトを提供できるという点で大きな意義がある。

教育コンテンツの収集・作成と保存



教育コンテンツの評価と管理

6NC教育・研修committee
(6NC Education and Training Committee:6NET-C)を設立



- ・コンテンツ作成装置の選定・導入とクラウド配信システムの構築
- ・コンテンツの選別と管理システムの構築

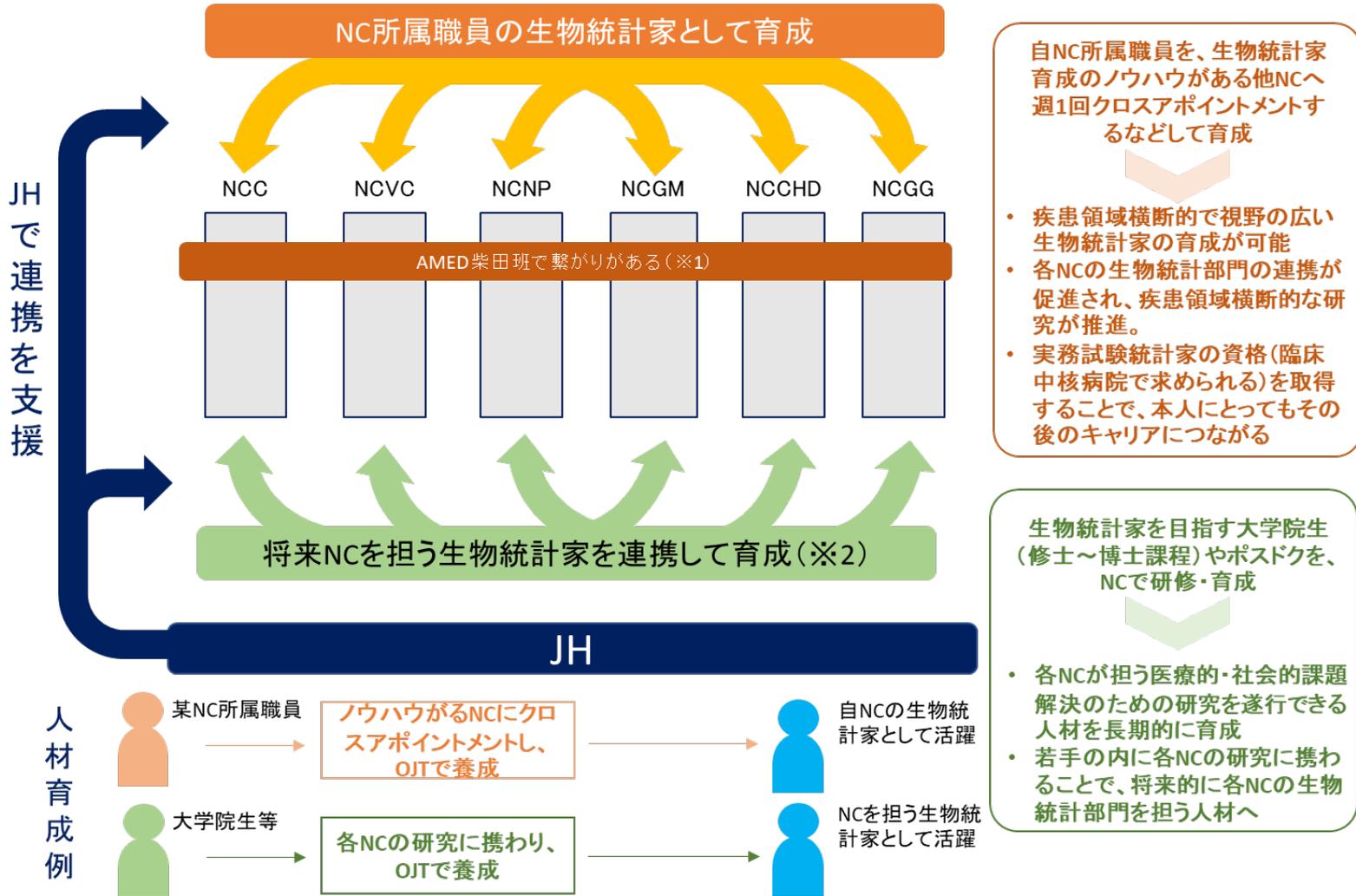
期待される効果

- ①6NC共通の教育研修基盤としての、教育用プラットフォームを構築することによって6NCの職員が自由に相互利用できるコンテンツの作成と管理体制ができる。
- ②共同管理体制ができることによってコンテンツの質の向上が期待できる。
- ③国立高度専門医療センターが求められる人材育成と情報発信に貢献できる。
- ④共有したコンテンツを学習することができ、6NC職員の質の向上が期待できる。
- ⑤一部のコンテンツは一般にも公開・閲覧できるようにするため、国民への医療・介護知識の啓発に役立つことができる。
- ⑥企業やアカデミアにも公開することによりこれらの組織との連携の一助となる。

スケジュール

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
コンテンツの収集・作成		既存コンテンツの利用 新規コンテンツの作成	
コンテンツの保存		システムの確立	システムの強化

図2 JH人材育成課が支援する生物統計家人材育成イメージ



※1 AMED柴田班 (R1-R3)医薬品等規制調和・評価研究事業患者レジストリーデータを用い、臨床開発の効率化を目指すレギュラトリーサイエンス研究

※2 AMED生物統計家育成事業(H28-R2)等で東京大学大学院、京都大学大学院、東京理科大学大学院、などとの大学との連携実績あり